

所 属 田後漁業協同組合
氏 名 なかやま しんたろう
仲山 晋太郎 (45歳)
船 名 たいせいまる
大成丸 85トン
漁業種類 沖合底びき網



～親子4代、田後の海と共に暮らしてきた生粋の田後漁師～

仲山晋太郎さんは田後で代々続く沖合底びき網漁師の4代目である。親が漁師だったため、自分も漁師になるのだと子供の時から考えていたという。自然と漁師になった現在は、海技士として働いている。奥さんと二人で夫婦円満に暮らしていて、休日には、スケボーとパチンコに興じる毎日を過ごしているそうだ。

そんな仲山さんだが、いま漁業存続の危機を感じている。問題は人材確保である。後継者が少なく、船員が不足している。また、機関士の資格を持つ船員が少なく、船員確保は綱渡り状態だ。さらに、新しく入った船員の多くが続かずに辞めてしまうと言う。

「若いころは何も考えていなかったが、漁業を続けるうちに責任感が芽生えてきた。なりゆきで始めた漁業だが、今は途絶えさせてはいけなと考えている」と仲山さんは語る。漁業は決して甘くはないが、漁師に興味がある人は是非挑戦して欲しい。生粋の田後の漁師は、やる気に満ちた挑戦者を待っている。

～漁師の適性とは？～

漁師は辛いこともあるが歩合制のため、やりがいのある仕事である。では、漁師の適性とはなにか？ この質問に対して仲山さんは、海や釣りに対する本人の興味はあまり関係ないと語った。ストレスを貯め易い人はあまり向いていない。大切なのはハートの強さ、すなわち強靱な精神なのだそうだ。

(文責：藤岡 秀文)